

鴨川歩き企画 「鴨川が“むすぶ” 自然と暮らしと」

～まちなかを離れ、鴨川の源流域・雲ヶ畑の自然と暮らしに迫る～

7月25日（土）は鴨川源流域雲ヶ畑、祖父谷川の支流足谷川を遡り、自然を満喫するツアーに参加しました。2週間前の7月11日（土）に続き2回目の足谷です。1週間前の台風11号による増水で開催が危ぶまれましたが、谷の被災も思ったよりは小さく、晴天に恵まれての開催となりました。

2週間という時間の経過がみせる自然界の移り変わりを改めて実感するツアーとなりました。

前回は観察した“ハナイカダ”は、青かった実が熟して黒く光っています。ガイドさんの説明で、食べる事が出来ると聞いて口に含んでみる参加者もありました。「にが！」とまだ完熟していない実にあたった方も・・・。

ハナイカダ

<5月2日 蕾>



<7月11日 青い実>



<7月25日 黒い実>



<観察開始>



<これは食べる事が出来ます>



紙の原料となる“ヒメコウゾ”の木にも、野いちごや桑の実の様な小さなブチブチの集まった実を着けています。

< “ヒメコウゾ”の木 >



< 赤い実 >

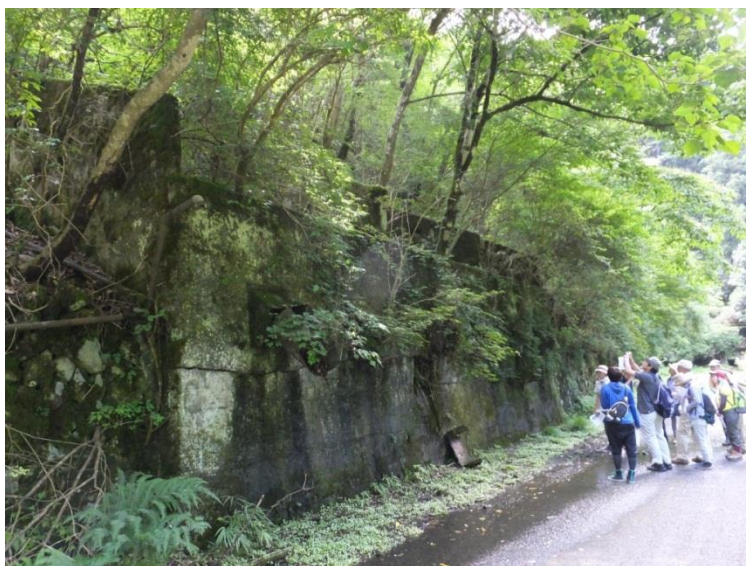


「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が話題になっています。ここ雲ヶ畑にもかつての碎石場跡が、ひっそりとその姿を残しています。

雲ヶ畑で産出される赤白珪石（通称：肉石）は、明治産業革命の中でも製鉄・製鋼の分野の心臓部を支えた歴史があります。この肉石を砕いたものを原料の一つとして製造された煉瓦は、溶鉱炉用耐火煉瓦として使用され、溶鉱炉の命の炎を絶やさないうよう守りました。

「薪」「炭」「木材」が雲ヶ畑の生活を支えてきた事は有名ですが、石がその生活を支えた時期もあったのです。雲ヶ畑に残された「京都市産業遺産」として保存されてもよいのでは？

< 碎石場跡地 >

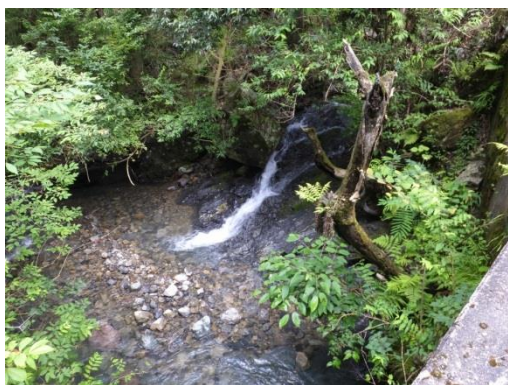


今回は、京都府絶滅危惧種の“ヒナノウスツボ”の花を見ることが出来るタイミングでの開催となりました。足谷に入る前に少し脚を伸ばして鑑賞してきました。

<京都府絶滅危惧種“ヒナノウスツボ”>



<足谷と祖父谷川の合流点>



<入山札>

